

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担研究報告書

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築における

情報通信機器を用いた精神療法の活用に向けた研究

分担研究課題「離島・僻地医療、災害支援の観点を含めた地域ニーズ・支援実態の把握」

研究分担者 熊崎 博一 長崎大学医歯薬学総合研究科

研究要旨 本研究では、特に災害医療・僻地医療（東北大）、離島・僻地医療（長崎大）の観点から、自治体でのニーズ、リソース等につき、実際の導入事例を含めて情報収集を行う。例えば、オンライン診療を使いこなせない地域在住の高齢者に対して、専門医と連携してオンライン診療を導入し治療継続につなげる、という一連の流れをカバーし、その役割分担について整理する。

A. 研究目的

本邦では、離島・僻地など医療資源が確保できない地域、あるいは基本的な医療資源があっても精神科専門医が不足している地域が随所に存在する。独居高齢者の増加も大きな問題である。令和6年1月には能登半島地震が発生し、復興支援におけるニーズも改めて浮き彫りになった。

今後求められるのは、オンライン診療が地域における医療提供のあり方の一つとして適切に普及し、地域の医療体制への貢献を果たしていくことである。R6年度の診療報酬改定を経て活用の拡大が予想されるが、多くの精神科医師はオンライン診療の経験がなく、ノウハウが共有されていない。患者によっては自治体の支援が必要になるケースもあるが、自治体間の事例共有も不十分である。また、医療機関が近隣にない等の理由でオンライン診療の活用が有用であると思われる患者でも、ITリテラシーが低い等の理由から必ずしも使いこなせないケースは多く想定される。そのような場合には適

宜、自治体との連携が必要となるが、その方法も具体的に示されることで、こうしたニーズに適切に応えることが可能である。

B. 研究方法

僻地医療（東北大）、離島・僻地医療（長崎大）の観点から、自治体でのニーズ、リソース等につき、実際の導入事例を含めて情報収集を行う。

C. 研究結果

参加者は何れも85歳以上と高齢であった。全例が精神科未受診で、精神科診療への受診に抵抗があった中で、遠隔診療でD to D with Pの形ではスムーズに受診することができた。高齢者の症例で、薬物調整も難しい症例が多かった中で、遠隔診療の下での薬物調整も順調に行うことができた。精神療法や施設入所の助言も適切に行うことができた。遠隔診療は長崎大学（船を乗り換えて、片道3時間超、高速船の便数は時期によっては一日2便、天候によっては欠航する中で、安定した環境下で診療を行うことができた。

D. 考察

本研究で得られた好事例・導入支援事例は、多くの臨床家・自治体の参考になるものであると考えられた。今後、これらの導入支援事例を、手引書作成などを通して共有していくことが有用であると考えられる。

E. 結論

本研究で得られた導入支援事例を参考に、臨床家が参考にできるオンライン診療実践の手引書作成を通して、より適切なオンライン診療の普及に寄与するよう努める。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表：該当なし
2. 学会発表：該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得：該当なし
2. 実用新案登録：該当なし
3. その他：該当なし